

北京セミナーレポート

オリス 古藤

2010年9月17日(金) 9:30～

於:中国職工之家酒店

参加者:50名

司会:馮琳高級主管

- ◆ 中国保険行業協会
王秘書長の挨拶
- ◆ オリス
岡本理事長の挨拶



- ◆ 講義1「社会環境の変化と生命保険会社の対応」 オリス 古藤職員

人口ピラミッドの変化を1930年から2050年までリアルに紹介し、少子高齢化が進む日本では、人口構成の激変と人口の激減が進むことを説明した。経済発展が少子化と固く結びついていることを示し、少子化が避けて通れない道であることを明らかにした。また、中国の人口の変化についても言及し、この問題が早晩中国でも発生するであろうと警鐘を鳴らしていた。

続いて保険会社の対応について講義があり、多くの保険会社が死亡保障分野から医療・年金分野にシフトするであろうとした。しかし、医療保険には医療リスクの把握の困難さという問題があるため、死亡保険とは全く異なるリスク管理が必要であることを説明した。

講義後、以下の質問があった

- 日本の年金制度
 - ✓ 国民年金と厚生年金の構成
 - ✓ 年金支給開始年齢
 - ✓ 給付金額と保険料水準
 - ✓ 国民年金保険料を支払わなかったときの罰則の有無は？
- 民間の個人年金
 - ✓ 個人年金保険の保険料水準はどの程度か？
 - ✓ 収入保険料における年金保険料の割合
- そのほか
 - ✓ 60 歳定年後、年金が開始される 65 歳までの収入をどう確保するのか？
 - ✓ 再保険会社に対するアドバイスはあるか？



◆ 講義2「国際金融危機等の対応」ジブラルタ生命 逆井執行役員

2008 年の金融危機が日本の生命保険業界に与えた影響、特に保険監督基準や国際会計基準の流れにどのような影響を与えたか、ということを中心に、ソルベンシーマージン基準の改定や Embedded Value の動向、国際会計基準の動向を解説した。

最初は金融危機でどのようなことが起こったかを明らかにし、続いて日本の FSA による保険会社の健全性をより厳格な基準で計測する動き、すなわち新ソルベンシーマージンの概略を説明した。金融危機が EV に与えた影響についても解説。ヨーロッパで検討されている MCEV (Market Consistent EV) の重要性を話した。

最後に SM II と国際会計基準の動向について、歴史的経緯も含めて説明した。MCEV も含めたこれらの手法は相互に関連しているため、総合的な理解の重要性を訴えていた。

講義後、以下の質問があった

- 商品・チャネル関連
 - ✓ 主力保険商品とチャネル

- ✓ 予定利率の現状
- ✓ 多くの会社の変額年金の販売を停止した理由は？
- ✓ 月払が中心となっている理由は？
- ✓ 日本の新しいチャネルは？
- ✓ 投資連動型の商品が日本で成功しない理由は？
- その他
 - ✓ 営業社員のノルマについて
 - ✓ SMRの分母を増やす具体的な方法は？
 - ✓ 3利源のどれで収益を得ているのか？

